

家庭総合

総合学科

教科	家庭	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)			副教材等	・家庭科ノート ・調理実習ノート基礎編		履修 <input checked="" type="checkbox"/> 履修・選択
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路
男女が協力して、家庭生活を築いていく意識と責任を育みます。また、生活に必要な知識や技術を身に付けるとともに、よりよい家庭生活の創造を目指して、食・住生活、子どもの発達と保育などについて学習します。				・生活と栄養バランス、健康とのかかわりを軸に食生活の在り方について理解する。 ・乳幼児の発達と保育に関する学習を通して、子どもを生き育てることの意義、親や家族の役割について理解する。			・2年次生全員が履修します。
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	第6章 食生活をつくる	1 食生活の課題について考える	1 青年期の食生活の課題 2 「食べる」とは 3 食生活の課題 4 食生活の変化			
	5月		2 食事と栄養・食品	1 生涯の健康と食事 2 栄養と栄養素 3 炭水化物 4 資質 5 たんぱく質 6 無機質 7 ビタミン 8 その他の食品			
	6月		3 食生活の安全と衛生	1 食品の洗濯と保存 2 食生活の衛生と安全  ○ 家庭科技術検定食物調理4級への取組			
	7月		4 生涯の健康を見通した食事計画	1 栄養バランスのよい食事 2 食事計画  ○ 調理実習 (1学期 3回程度) ○ ホームプロジェクトについて			
	9月		第2章 子どもと共に育つ	5 調理の基礎	○ ホームプロジェクトの発表 1 調理法と味のバランス 2 食事の場面を考えた調理 3 環境負荷の少ない食生活 4 持続可能な食生活を営む力 ○ 調理実習 (2学期 3回程度)		
	10月	2 子どもの育つ力を知る		1 子どもの育つ力 2 生まれつき持っている能力 3 身体の発達 4 心の発達 5 遊びの発達			
	11月	3 親として共に育つ		1 子どもの発達と保育 2 子どもの生活と保育 3 親として育つ			
	12月	4 子どもとの触れ合いから学ぶ		1 幼い子どもとの触れ合い			
	1月	第8章 住生活をつくる	5 これからの保育環境	1 現代の子育て環境 2 地域社会の関わり 3 子どもの権利と福祉			
	2月		1 住生活について考える	1 住居の機能と変化 2 平面図を理解する 3 住居の計画 4 誰もが住みやすい住居			
	3月		2 住生活の計画と選択	1 安全で快適な住生活 2 健康な住生活 3 住居の維持と管理			
				3 住生活の文化と知恵	1 気候風土に応じた住居 2 伝統的な日本の住居の工夫		
			4 これからの住生活	1 持続可能な住居 2 社会環境と住居			
学習方法	<b>【予習】</b> 日ごろからマスコミ報道にふれて社会の動きを把握するとともに、生活情報を収集しましょう。 <b>【授業】</b> 調理実習に際しては、不必要な私語を慎み、安全に、協力して進めましょう。 <b>【復習】</b> 授業で身に付けた知識や技術を日常生活の中で生かし、日々の生活の改善・充実に努めましょう。						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解			
	・食・住生活、子どもの発達と保育などについて関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付ける。	・食・住生活、子どもの発達と保育などについて見直し、生活課題を主体的に解決するための思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付ける。	・情報や資料を各方面から積極的に収集し、役立つものを主体的に選択し、活用する。	・食・住生活、子どもの発達と保育などに関する基礎的・基本的な知識や技術を総合的に身に付ける。			
評価方法	第1・2学期		第3学期	年度末			
	※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考查による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		A：6割 実習点：2割 B：2割 Bは、授業態度、課題、ノートの提出、授業準備等	A：6割 実習点：2割 B：2割 Bは、授業態度、課題、ノートの提出、授業準備等	1・2・3学期の平均 (家庭クラブ活動の取組状況も考慮します。)		
備考							

消費生活

総合学科

教科	家庭	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	P②群					
使用教科書	消費生活 (教育図書)			副教材等			履修 必履修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択					
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路						
商品研究や事例研究などの実践的・体験的な学習を通して、消費生活に関する知識と技術を身に付けます。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・財・サービスの選択と意思決定、消費者の権利と責任など消費生活に関する知識と技術を習得する。</li> <li>・環境保全に配慮した消費生活に寄与する能力と態度を養う。</li> </ul>			履修の条件は特にありません。						
学習の年間計画	月	単元名	項目	学習内容								
	4月	第1章 消費者と消費生活	第1節 経済社会と消費生活	第1 家計 第2 家計と生活設計 第3 家計支出からみた消費生活の変化 第1 消費者問題の発生 第2 消費者問題と消費者行政の推移								
	5月		第2節 国民経済と消費生活									
	6月		第3節 消費生活の変化と消費者問題									
	7月											
	9月	第2章 消費者被害と消費者の権利・責任	第1節 消費者問題発生理由					第1 消費者被害と消費者の権利 第2 消費者の権利と具体的内容 第3 消費者責任の考え方 第1 消費者運動 第2 消費者行政 第3 消費者被害の救済 第4 事業者の消費者対応 第1 消費者が受けている危害の現状 第2 安全な消費生活を確保する責任				
	10月		第2節 消費者被害の意味と消費者問題									
	11月		第3節 消費者の権利と責任									
	12月	第3章 消費生活と安全	第4節 消費者問題への対応									
	1月		第4章 消費者の自由な選択	第1節 消費生活における情報の役割	第1 消費者の自由な選択のための条件 第2 公正かつ自由な競争の確保 第3 違反行為と消費者 第1 消費者の意志決定と情報 第2 情報の役割 第1 事業者が提供する情報 第2 行政やマスコミが提供する情報 第3 事業者団体が提供する情報							
	2月			第5章 消費生活と情報								第2節 消費者が利用できる主な情報と信頼性の確保
	3月	第3節 信頼できる適正な情報を確保するための施策										
学習方法	<b>【予習】</b> 消費者や環境に関わる事項は時事問題との関わりが大きいので、新聞等を活用して情報を収集しておきましょう。 <b>【授業】</b> 学習活動に積極的に取り組みましょう。 <b>【復習】</b> 環境保全に配慮した生活の在り方について考え、日常生活の中で消費者として自主的・合理的に行動しましょう。											
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解								
	・学習内容に関心をもち、意欲を持って学習活動に取り組む。	・消費生活の課題、資源や環境との関わりについて課題を見付け、その解決を目指して思考を深める。	・実践的・体験的な学習を通して、自立した消費者として責任をもって行動できるように必要な基礎的・基本的な技術を身に付ける。	・学習内容を理解し、適切な意志決定に基づいて、責任をもって行動するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付ける。								
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に調査による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価	第1・2学期 A：6割 実習点：2割 B：2割	第3学期 A：7割 実習点：2割 B：1割	年度末 1学期：2学期：3学期＝ 2：2：1の割合で評価する。								
備考												

子ども文化

総合学科

教科	家庭	単位数	3単位	対象	2年次	選択群	L群
使用教科書	子ども文化(教育図書)			副教材等		履修	必履修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
乳幼児の遊び、児童文化財と創作活動などに重点をおいて、実習・演習を通して基礎的知識・技術の習得をはかり、実践的な態度を養います。			<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの遊び、子どもの表現活動、児童文化財などに関する知識と技術を習得する。</li> <li>児童文化の充実を図る能力と態度を育てる。</li> </ul>			履修の条件は特にありません。	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	第1章 児童文化とは何だろう	1 児童文化とは	1 遊びの魅力と特徴 2 遊びの意義と機能 3 子どもの発達と遊び			
	5月	第2章 子どもと遊び	1 遊びの意義と発達	1 遊びの原空間 2 遊びの実態 1 遊具 2 玩具			
	6月	第7章 幼児の遊びの観察と保育実習	4 遊びと伝承 2 遊びの現状 3 遊びと遊具・玩具	【1学期の実習】 伝承遊び、玩具の製作、保育実習 保育検定4級 等			
	7月		1 幼児と出会う前に 2 遊びの観察 3 保育実習				
	9月	第4章 子どもと文学	1 素話 2 紙芝居 3 絵本	1 絵本とは何か 2 絵本の特徴 3 絵本の歴史 4 絵本の種類 5 絵本はアート 6 ビデオ化された絵本をどのように扱うか 1 児童文学の歴史 2 児童文学のジャンル			
	10月	第3章 子どもと表現活動	4 児童文学 5 アニメーション	1 造形教育の歴史 2 子どもの発達とつくる活動 3 子どもの発達と描く活動 4 飾る活動 1 保育の実態 2 幼児の姿 3 活動の展開			
	11月		1 子どもの表現活動のおもしろさ 2 造る、描く				
	12月		3 言語表現活動 4 歌う、踊る、演奏する 5 幼稚園における表現活動の実際	【2学期の実習】 絵本の製作、壁面構成、保育実習 保育検定3級 等			
	1月	第5章 現代の子どもの生活と文化	1 テレビ、キャラクター、ゲーム 2 子どもと年中行事	1 変わってきた年中行事 2 通過儀礼と年中行事 3 地域で育てる			
	2月	第6章 児童文化を支える活動	1 児童文化活動 2 児童文化のための施設	1 子どもに児童文化財を届ける活動 2 「子どもプラン」の展開 1 子どもの体験活動の支援施設 【3学期の実習】 紙芝居製作、施設見学、保育実習 等			
	3月						
学習方法	<p>【予習】 日頃から新聞・ニュースを見て、社会の変化に伴い、子どもの遊びの環境が変化する中での児童文化の役割について考えてみましょう。</p> <p>【授業】 学習活動に積極的に取り組みましょう。</p> <p>【復習】 日常生活の中でも、積極的に子どもと遊びを通して、触れ合ってみましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解			
	子どもの生活と遊びに関心をもって、積極的に関わる。	遊びの意義や児童文化について考える。 言語、リズム、造形等に関する表現力を身に付ける。	実践的・体験的な学習活動を通して、子どもと適切に関わる。 子どもの健全な発達を支援するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付ける。	遊びを通して、心身の発達や健康の保持増進 がなされていることを理解する。 保育体験を通して、子どもについてより理解を深める。			
評価方法	第1・2学期		第3学期		年度末		
	A: 6割 実習点: 2割 B: 2割 Bは、授業態度、課題、ノートの提出、授業準備等		A: 6割 実習点: 2割 B: 2割 Bは、授業態度、課題、ノートの提出、授業準備等		1・2・3学期の平均 (家庭クラブ活動の取組状況も考慮します。)		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>挑戦できる検定試験：全国高等学校保育技術検定4・3級</li> <li>実習費が別途必要です。</li> </ul>						

ファッション造形基礎

総合学科

教 科	家庭	単位数	4 単位	対象	3 年次	選択群	N 群
使用教科書	ファッション造形基礎 (実教出版)			副教材等	家庭科問題集 基礎編		履修 必履修・ <input checked="" type="checkbox"/>
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路
被服構成の基礎と被服材料の種類と特徴は講義、被服の構成技法と洋服の製作と和服の製作は実習を中心として学習していきます。				<ul style="list-style-type: none"> <li>被服構成の基礎、構成技法、被服材料の特徴などに関する知識と技術を習得する。</li> <li>被服を創造的に製作する能力と態度を身に付ける。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>履修の条件は特にありません。</li> <li>実習中心の科目です。被服製作に興味・関心のある生徒</li> </ul>
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4 月	1 章 衣服の構成	1 節 人のからだと衣服 2 節 立体構成衣服と平面構成衣服	1 人と衣服、からだの形、体型の特徴、動作と衣服 1 立体構成衣服 2 平面構成衣服			
	5 月	4 章 洋服の製作	1 節 製作の基礎 2 節 製作	1 洋服とは、布地の性質と扱い方、適切な縫い目 1 ショートパンツの製作			
	6 月	5 章 和服の製作	1 節 製作の基礎 2 節 製作	1 和服とは、和服の素材と用具、基本的な技法 1 じんべいの製作			
	7 月						
	9 月	3 章 衣服の素材	1 節 衣服素材の種類 2 節 衣服素材の性能	1 素材の種類、繊維の分類、糸の種類、織物、編み物 ○ 実験 1 要求される性能、衣服素材の性能改善			
	10 月	4 章 衣服の製作	2 節 製作	1 製作内容は生徒の技術や希望によって決定します。			
	11 月						
	12 月						
	1 月	4 章 衣服の製作 課題学習	2 節 製作	1 製作内容は生徒の技術や希望によって決定します。			
	2 月						
	3 月						
学習方法	<p>【予習】 作業内容を確認しておきましょう。</p> <p>【授業】 実習中心の科目です。被服製作をしていく中であらゆる知識と技術を身に付けながら、楽しく実習しましょう。</p> <p>【復習】 時間ごとの製作進度に達していない場合、次回までの課題とします。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>衣服の構成・材料・製作について関心をもつ。</li> <li>衣生活の充実・向上をめざして意欲的に取り組むことができる。</li> <li>衣服を創造的に製作する態度を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>衣服の構成・材料及び製作に関して、自分の嗜好や家族の要求との関連をみつけることができる。</li> <li>衣服の製作について、自分の考えをまとめ、目的に応じてどのような材料・デザインなどが適当かを判断し、創意・工夫を表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>衣服の構成に関する実習や材料に関する実験などを通して、被服のデザインや材料の選択に関する技能を身に付ける。</li> <li>計画に従って能率的に衣服の製作を行うことができる技能を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>衣服の構成・材料、製作の理論・技術について理解する。</li> <li>衣服を創造的に製作するために必要な知識を身に付ける。</li> </ul>			
	<p>評価方法</p> <p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。</p> <p>A:主に調査による観点別評価 B:主に授業等の活動による観点別評価</p>	第1・2学期	第3学期	年度末			
		A、作品、Bを総合的に評価する	A、作品、Bを総合的に評価する	1学期：2学期：3学期＝2：2：1の割合で評価する。			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>挑戦できる検定試験：全国高等学校家庭科技術検定被服製作4・3・2級</li> <li>教材費が別途必要です。</li> </ul>						

服飾手芸

総合学科

教科	家庭	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	J②群
使用教科書	改訂版 パッチワークの基礎 (ブティック社)			副教材等		履修	必履修・ <b>選択</b>
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>刺しゅう、編物、染色、織物及びその他の手芸について、その技法や特徴を講義や実験により理解していきます。またその中からいずれかを選択して、基礎的な技法を身に付けていきます。</p>			<p>・手芸の種類と変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得する。 ・手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力と態度を養う。</p>			<p>・履修の条件は特にありません。 ・実習中心の科目です。服飾手芸に関する進路希望者を対象とします。</p>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	・刺しゅう ・刺し子	1 刺しゅうの種類と特徴	1 フランス刺しゅう、日本刺しゅう、スウェーデン刺しゅうの特徴、材料と用具、デザイン、基礎的な技法			
	5月		2 刺し子の種類と特徴	2 刺し子の模様・由来、デザイン、技法			
	6月		3 実習	3 実習 (ふきん、コースター 他)			
	7月	・被服検定4級	1 手縫いの基礎	1 なみ縫い、返し縫い、まつり縫い、ボタン付け			
			2 ミシン縫いの基礎	2 直線縫い、曲線縫い、端ミシン			
			3 被服検定4級への取組み	3 検定の練習			
			4 袋の製作	4 検定作品の仕上げ			
		・パッチワーク	1 パッチワークの基礎	1 材料と用具、布、型紙、布目、裁断、ピースワークの仕方			
			2 実習	1 小物入れの製作			
				2 共同作品の製作			
		・編み物	1 編み物の基礎	1 編み物の種類と特徴			
		2 棒針編み	2 材料と用具				
			3 採寸、製図、ゲージ、仕上げ、手入れ				
	・総合製作	3 かぎ針編み	1 ゲージ作り				
			2 マフラーの製作				
		1 生活に役立つ小物	1 編み方の基本				
			2 コースター作り				
			1 アクリルたわし作り				
			2 布と編み物を利用した巾着作り				
学習方法	<p>【予習】 作業内容を確認しておきましょう。 【授業】 実習中心の科目です。手芸の基本的技法を学習していく中で服飾手芸に関する知識と技術を身に付け、興味や個性を生かした作品をつくりましょう。 【復習】 時間ごとの製作進度に達していない場合、次回までの課題とします。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解			
	・手芸品の種類と特徴・製作について関心をもつ。 ・手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力と態度を身に付ける。	・手芸品の製作に関して、自分の嗜好や家族の要求との関連をみつけることができる。 ・手芸品の製作について、自分の考えをまとめ、目的に応じてどのような材料が適切かを判断する力を身に付ける。 ・デザインなどが適切かを判断し表現する力を身に付ける。	・手芸に関する実習や材料に関する実験などを通して、デザインや材料の選択に関する技能を身に付ける。 ・計画に従って能率的に手芸品の製作を行うことができる技能を身に付ける。	・手芸品の種類と特徴、製作の理論・技術について理解する ・手芸品を創造的に製作するために必要な知識を身に付ける			
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考查による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価	第1・2学期 A、作品、Bを総合的に評価します。	第3学期 A、作品、Bを総合的に評価します。	年度末 1学期：2学期：3学期＝2：2：1の割合で評定する。1・2・3学期の平均			
備考	<p>・ 挑戦できる検定試験：全国高等学校家庭科技術検定被服製作3級 ・ 実習費が別途必要です。</p>						

フードデザイン

総合学科

教科	家庭	単位数	3単位	対象	2年次	選択群	L群
使用教科書	フードデザイン (実教出版)			副教材等	調理実習ノート専門編		履修 必履修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
家庭総合における学習を基礎として栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を総合的に身に付けます。また、実習を通して食事を総合的にデザインする能力と態度を養います。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・多種多様な食品について、栄養的価値、調理上の特徴を体験的に理解し、各自の食生活における献立作成や調理に生かせる。</li> <li>・輸入食品によって支えられている食糧事情を理解し、食物を大切にすることを養う。</li> <li>・料理様式に対応した献立作成及び専門的な料理ができ、ふさわしいテーブルセッティングができる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・食に興味・関心のある生徒・栄養士、調理師を目指して進学を希望している生徒は履修することを勧めます。</li> </ul>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	1章 食生活と健康	1節 食事の意義と役割 2節 食をとりまく現状	1 からだをつくる栄養素としての食事 2 食生活を豊かにするものとしての食事 1 栄養摂取の変化と現状 2 生活習慣病と欠食 3 ライフスタイルの変化 4 食料自給率			
	5月	4章 調理の基本	1節 調理とおいしさ 2節 調理操作 3節 調味操作	1 調理の目的 2 食べ物のおいしさ 1 非加熱操作 2 加熱操作 3 加熱調理器具 ○ 調理実験、調理実習 (1学期各3回程度)			
	6月	2章 栄養素のはたらきと食事計画	1節 からだのしくみと食べ物 2節 栄養素の種類とはたらき	1 からだのしくみ 2 栄養素の役割 1 炭水化物 2 脂質 3 たんぱく質 4 ビタミン 5 ミネラル 6 水・その他の物質			
	7月		3節 消化と吸収	1 消化のしくみ			
	9月	3章 食品の特徴・表示・安全	4節 食事摂取基準と食事計画 5節 ライフステージと栄養計画	1 日本人の食事摂取基準 2 食事計画 1 乳児期・幼児期・学童期・青年期・成人期・高齢期の栄養計画			
	10月		1節 食品の特徴と性質	1 穀類 2 いも類 3 砂糖 4 豆類 5 種実類 6 野菜類 7 くだもの類 8 きのこ類 9 海藻類 10 魚介類 11 肉類 12 卵 13 牛乳・乳製品 14 油脂類 15 かんてん・ゼラチン 16 し好食品			
	11月		2節 食品の衛生と安全	1 食中毒 2 台所の衛生 3 食品添加物 ○ 調理実験、調理実習 (2学期各4回程度)			
	12月						
	1月	5章 料理様式とテーブルコーディネート	1節 料理様式と献立 2節 テブルコーディネート	1 日本料理 2 西洋料理 3 中国料理 1 テブルコーディネートの意義 2 テブルコーディネートの要素			
	2月	6章 フードデザイン実習	1節 献立作成	1 献立の種類と条件 2 テーマ設定と調理実習 (3学期3回程度)			
	3月	7章 食育	1節 食育の意義と推進活動	1 食育基本法 2 家庭や地域における食育推進活動			
	学習方法	<p>【予習】 日頃から自分自身の食生活に関心をもつとともに、食に関する情報を収集しましょう。</p> <p>【授業】 食物のおいしさは味、香、色、テクスチャー、温度などにも影響します。よりおいしい調理や演出を目指しましょう。</p> <p>【復習】 家庭でも食事や調理に関心をもって生活しましょう。また、学校で学んだ多くの知識や技術を家庭でも実践してみましょう。</p>					
評価の観点・評価基準・評価方法	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技 能		知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食の文化的な意味を踏まえて精神的な満足を得るための食事という視点に関心をもつ。</li> <li>・作る場所から食べる場所までを総合的に捉えて計画する意欲と実践的な態度を身に付ける。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の食生活や、食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深める。また、考えをまとめて判断をする。</li> <li>・自分を取り巻く現状から見つけた課題を的確に表現する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を習得する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の意義と役割について理解する。</li> <li>・豊かな食事を構成する要素として栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を習得する。</li> </ul>
	<p>評価方法</p> <p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。</p> <p>A：主に考查による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価</p>		第1・2学期		第3学期		年度末
		A、実習、Bを総合的に評価します。 Bは授業態度、ノート・課題の提出等		A、実習、Bを総合的に評価します。 Bは授業態度、ノート・課題の提出等		1・2・3学期の平均	
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挑戦できる検定試験：全国高等学校家庭科技術検定食物調理3級</li> <li>・ 実習費が別途必要です。</li> </ul>						

